小平の歴史を拓（ひら）く

市制施行50周年に向けて市史を編さん中です

小平は、昭和37年に市となり、平成24年には市制施行50周年を迎えます。

新しい市史の発行に向け、市では、昨年度から市史編さんを行っています。「小平町誌」や「小平市三〇年史」の成果を踏まえ、その後に発見された史料や研究成果および新たな聞き取り調査などを反映する方針です。また、小平の歴史や文化についてあらためて市民生活の目線に立ち、全面的に書き換えた「小平市史」とし、市民の皆さんに広く親しんでもらうための編さん作業を進めています。

今回は、市史編さんがどのように進められ、何を目指しているのかを紹介します。

市史編さんの活動

市長が本部長となり、平成20年から市史編さん推進本部を設置しています。今回の市史は、考古・自然・民俗編、近世編、近現代編の３冊を予定し、市民や有識者からなる市史編さん委員が調査・研究の進め方や編さん物の内容の検討を行っています。また、調査専門委員が聞き取り調査などを行っていますので、ご協力をお願いします。

現在の主な活動内容

- ○史料の調査・研究
- ○古文書および公文書の収集・整理
- ○関係団体との連携・情報発信
- ○刊行物の編さん

※平成20年度の事業報告、平成21年度の事業計画は市政資料コーナー（市役所１階）および小平市ホームページでご覧になれます。

◆資料・情報提供のお願い

小平の歴史に関する資料や情報を集めています。古文書や写真、ちらし、ポスターなどの資料や小平の歴史に関する情報をお寄せください。

企画政策部市史編さん担当
〒187－0032　小川町二丁目1325番地　中央図書館２階
☎042（341）2324
✉da0050@city.kodaira.lg.jp

市史の一部をちょっと紹介

考古・自然・民俗編 －昔の暮らし－

現在、考古・自然・民俗編では、聞き取り調査を行っており、近所づきあい、祭り、衣食住、女性の暮らし、農業経営、民具などをテーマにお伺いしています。今回は、すでに調査をした中から一例を紹介します。

調査で印象に残るエピソード

節分の夜、一般の家庭では豆をまいて家から鬼を追い払うが、逆に、鬼を招く所作をする家が市内に数軒あります。そのうちの一軒の奥さんに伺ったところ、「鬼はよその家から追い出されてかわいそうなので招いている」ということでした。ここまでは全国的にもよくある説明なのですが、奥さんはさらに続けて「私はこの家に嫁いできたが、姑から何一つ嫌なことをされなかった。もともと、よその家の者である嫁の私に対して、姑は優しく迎え入れてくれた。だから私も自分の嫁には優しく接していこうと心がけている。

そのような心持ちの家だからこそ、この行事が今でも続いているのだろう」ということでした。昔から伝わる風習でも、ただ何となく続けてきたわけではなく、その家柄・土地柄が反映されているのだと、気づかされた話でした。

飯山達雄さん寄贈写真より

近世編 －江戸時代の小平－

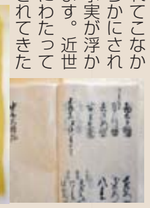
現在の小平市域には、江戸時代の７つの村が含まれています。最も古い小川村が今から３百50年ほど前の明暦２（1656）年に、その他の６か村は18世紀前半（江戸幕府８代将軍徳川吉宗の時代）に開発され、現在の地名にもその名が引き継がれています。

これらの村に居住した人々は、玉川上水から生活に不可欠な飲み水を確保していました。玉川上水は、江戸時代になくてはならないものであり、そのおかげで村が拓かれたのです。そして、現在では緑豊かな憩いの場として親しまれています。

こうして始まった小平の歴史ですが、江戸時代については、まだわかっていないことがたくさんあります。江戸時代の人々が書き残した記録（古文書）の解読が欠かせません。市内の多くの家に古文書が残されており、小平市立図書館で整理・保存・公開されています。

写真は大沼田新田の天保12（1841）年の史料で、「孫兵衛後家なつ」の下には、ほかの男性の名前と同様に押印が見られます。江戸時代になると村人が、はんこを使うようになりますが、夫や息子がいない「後家」になると、女性でも一家を代表してはんこを使っていることがわかります。

江戸時代の史料を丹念に読むと、今まであまり注目されてこなかった事実、明らかにされてこなかった事実が浮かび上がってきます。近世編では、長年にわたって図書館で整理されてきた江戸時代の史料を読み込み、市域の特色ある歴史を明らかにしていきます。



近現代編 －明治以降－

小平は明治22（1889）年に村制を、昭和19（1944）年に町制を、昭和37（1962）年に市制を施行しました。明治26年には神奈川県から東京府に移管され、大正末から学園都市建設が進められました。戦後、都市化にともなうベッドタウン化が急速に展開します。現在につながる歴史をどのように描くのかが、近現代編の大きな課題です。

１年間、市役所の公文書調査、そして学校、病院、工場、自治会・町内会などの市内調査を行ってきました。公文書調査の結果、今年度、小平村・町議会会議録（明治34年～昭和26年）を史料集として刊行する予定です。市内調査では、市民の皆さんのご協力により、自治会・町内会の会報や回覧板のチラシなどを収集し、聞き取りをしています。市民の体験談は、貴重な情報源です。「市史編さんこぼれ話No１」の中では、昭和30年代の小平の、霜柱が立ち、ぬかるみとなる厳しい冬の武蔵野台地であった風景が、生き生きと語られています。行政文書では見えにくい小平の生活史は、市民の皆さんの情報から生まれるのです。

こうした小平の人々の生活、その仕組み、努力や工夫にスポットライトを当てて、小平の近現代史像に迫っていきます。

飯山達雄さん寄贈写真より

◆地域連携・市民協働

今まで培った力を生かして、市史編さんに役立て、自分たちの地域理解になるならば自分たちも参加したいという声があがり、さまざまな連携を始めています。

模型造り

職業訓練大学校の先生の指導で、学生と市民が連携し、玉川上水の取水口の一つである小川分水の樋口（ひぐち）の模型、小川村開村当初である延宝２（1674）年ごろの小川村の町並みの模型を作成しています。

図面のデジタル化

小平アーカイブスの会の協力により、明治時代の公図から村単位および小平村全体のデジタル画像を作成しています。

学校との連携

小学校資料調査時の市史編さんに関する臨時授業、中学校の小平市教育研究会での研修・広報活動、武蔵野美術大学との市史編さん関係出版物のデザインと小平の地域特性の研究など、多岐に渡り連携しています。

予定する刊行物

- 小平市史（３冊）（平成24年度）
  考古・自然・民俗編、近世編、近現代編
- 小平市史別冊（２冊）（平成24年度）
  図録、写真集
- 小平市史付編（２冊）（平成25年度）
  索引、年表
- 小平市史料集　近現代編（５集）
  （平成21～23年度）
- 市史研究（６冊）
  （平成20～25年度）
- 小平市史概要版
  （平成26年度）

全編のイメージ

※上記の刊行物のほかに、図書館でも市史に関する刊行物を多数発行しています。

小平市無形民俗文化財指定40周年

小平の祭りを彩る 鈴木ばやし

遠くまで響き渡る太鼓やかねの音で、「今日は祭りだ」と気づく方も多いことでしょう。このお囃子（はやし）は鈴木ばやしと言い、江戸時代の弘化年間（1844～1847）、鈴木新田（現在の鈴木町）の深谷定右衛門が、江戸近郊から伝えてきたものだといわれています。

鈴木ばやしは、昭和45（1970）年に市の無形民俗文化財に指定されてから、今年で40年を迎えます。年間50回ほど、市内の祭りや各種イベントで演じられています。

その名の通り、もともと鈴木新田の人々が演じていたそうですが、文化財指定の折に鈴木ばやし保存会が結成されました。現在は、小平市内全域、昔からの住民も新たに越してきた住民も分け隔てなく会員になることができ、市民のお囃子として愛されています。

元日には武蔵野神社境内で、市民どうしの心を結ぶお囃子（はやし）が演じられます。ぜひ、ご覧ください。

◆歴史の豆知識 －こぼれ話－

小平での生活に関する市民の逸話や専門委員の調査結果などを「市史編さんこぼれ話」としてお知らせしています。昔の小平の体験談や思い出、実は小平には○○があったなど、豆知識が詰まっていますので、ぜひ、ご覧ください。

〈例えば〉

- 鈴木町に範多農園という有名な施設があった
- 小平はスイカの名産地だった　ほか

市史編さんこぼれ話は、市政資料コーナー（市役所１階）および小平市ホームページでご覧になれます。

◆市史編さんの作業をする人たちの声

人も土地も同じで、歴史や由来を知り、理解が深まるほど相手とのきずなが強まるのではないかと考えています。市史編さんへのかかわりが市民の「こだいら」を愛する気持ちをよりいっそう深めるのに少しでも役立ってくれるのを願っています（中山光弘）。

小学校６年間を小平で過ごし、関西に戻っていましたが、まさかこの町で子育てをすることになるとは。あれから11年。市史編さんに携わり、子ども時代の記憶に加え、さらに昔の情景を重ねながら、第２の故郷小平を行きつ戻りつ歩いています（砥上美也子）。

小平に住んで25年。人生のうちで一番長く暮らしたこの地の事を、より深く知りたいという思いが年々強くなります。古文書の釈文など、基礎資料作りの作業をしながら、遠い昔、荒地を切り拓き、農地を造り続けた先人たちに思いをはせています（羽山淳子）。